



麦秋の輝き

今ごろの季節を“^{ばいしゅう}麦秋”ともいいます。秋まきの麦が金色のこうべを垂れ、風になびくとそこから一面に波光が生まれます。そして、おそらくだれしもが、その輝きに心うばわれてしまうでしょう。

今年も、いよいよ麦を刈る風景が目に入ってきました。麦作も近年の転作のため復活し、新津市では、転作田649ヘクタールの約1割、63ヘクタールに作付けされています。麦の種類には、パンなどでおなじみの「小麦」、ビールの原料となる「二条大麦」、麦茶、めん類などの食用や飼料用に使われる「六条大麦」など多くありますが、市内で作付けされている麦は、ほとんど「六条大麦」だそうです。

麦価の引下げなど、農業経営は一段と難しくなっていますが、いま、“転作麦畑の団地化”にみられるように、経営の合理化がすすめられています。

刈取りのはじまった麦畑(北上新田にて)

広報

にいつ

6/15

昭和62年(1987年) 588号

★編集・発行 / 新潟県新津市 / 〒956 新津市本町二丁目
2番1号 / ☎0250-24-2111(代) ★毎月1日・15日発行

今号の内容

- 分流暫定通水後の能代川改修事業……………2・3頁
- 新津国際交流協会(仮称)の会員募集……………6頁
- 自転車はルールを守って……7頁
- カラー名刺第二弾が完成……12頁